

改善計画書(兼改善状況報告書)

作成日 : 平成17年11月1日

評価日 : 平成17年7月14日

グループホーム名	グループホームレオナ
----------	------------

作成者(代表)	職名 管理者
	氏名 森実恵子

優先順位	改善項目No.		改善目標	改善に向けた計画内容	期間	評価(17年 11月 1日現在)
	自己	外部				
	18	23	評価・考察を行いやすいように、ケアチェック表の様式を変更する。	ケアカンファレンスの場を多く持ち、職員 の意思統一を図りながら、具体的計画を すすめる。		アセスメントを見直し、利用者が望む生活に近 づけるよう、介護計画を作成した。
	28	37	身体拘束の内容を見直す。(その人にとっ て本当に必要なのか、ケアの仕方 で改善できないのか)	介護計画の中に取り入れ、ベッド柵を減ら すよう工夫する。		ベッド柵をすることが当たり前ではなく、これ も拘束の一つであることを意識づける。
	57	104	職員の意識向上のため、希望を募り研修へ の機会を増やす。	研修内容を職員の目の届く場所に張りだ し、希望を募る。 職員の興味のもてる研修に、希望して受 講してもらう。		研修の日程が決まったら勤務の都合をつけ、 受講しやすいよう協力体制を整える。
	5	6	グループホームレオナの雰囲気が出る玄関 づくり、表札の設置。	レオナの今現在の雰囲気はどうか。 安らげる場とはどういうものか、職員間で 意見交換する。		今の状態では、畳の部屋を作るのは難しい が、単座できる利用者には居室に畳を敷き、 利用している。また、現在少しずつ家具を置い たり雰囲気作りをしている。
	6	7	共用空間を家庭的な安らげる場所とする。			
	8	9	個人の居室とその人らしい個性あふれる空 間(使い慣れた家具、生活用品)とする。	家族の協力を得る。		家族との話し合いで、危険防止(転倒、破壊) のため置くことができない。 また、本人のものは処分されているところがほ とんど。必要なものは購入してもらえ るが、新しい物に関しては、なかなか言えずに いるところもある。
	30	43				
	11	14	適切な職員の小遣い、声の大きさを 知る。	職員間で話し合いを持つ。		生活環境に応じた声の大きさ、また利用 者の状態にあった声の大きさを話しかけて いる。
	33	28				
	33	47	食事を楽しめる雰囲気作りをする。	一緒に食事が出来るよう内容を見直す。		同じものを食べるに関しては検討中。昼食 やおやつは利用者と同じところで一緒にと っている。
	41	66	金銭管理を忘れないような支援をしてい く。	金銭管理が出来るような方はいないか、も う一度検討する。		外へ出て、支払いをするときは各自で支 払うようにしている。